

Park(ing)Day2020竹原

プロジェクト・レポート

2020年9月18日～20日 竹原駅前あいふる通り



協力：一般社団法人ソトノバ

Park(ing)Dayとは

2005年に米国・サンフランシスコで始まった、路上パーキングスペースを人のための空間に変える取り組みです。毎年9月第3金曜日に実施され、世界中のムーブメントになっています。これまで、ソトノバでは2017年に埼玉県さいたま市大宮、2018年に静岡県沼津市、2019年に東京都渋谷区宮益坂で実践しています。



Park(ing)Day2019渋谷宮益坂



Park(ing)Day2017大宮

全国6都市同時開催

横浜市、八千代市、長浜市、四日市市、倉敷市、竹原市

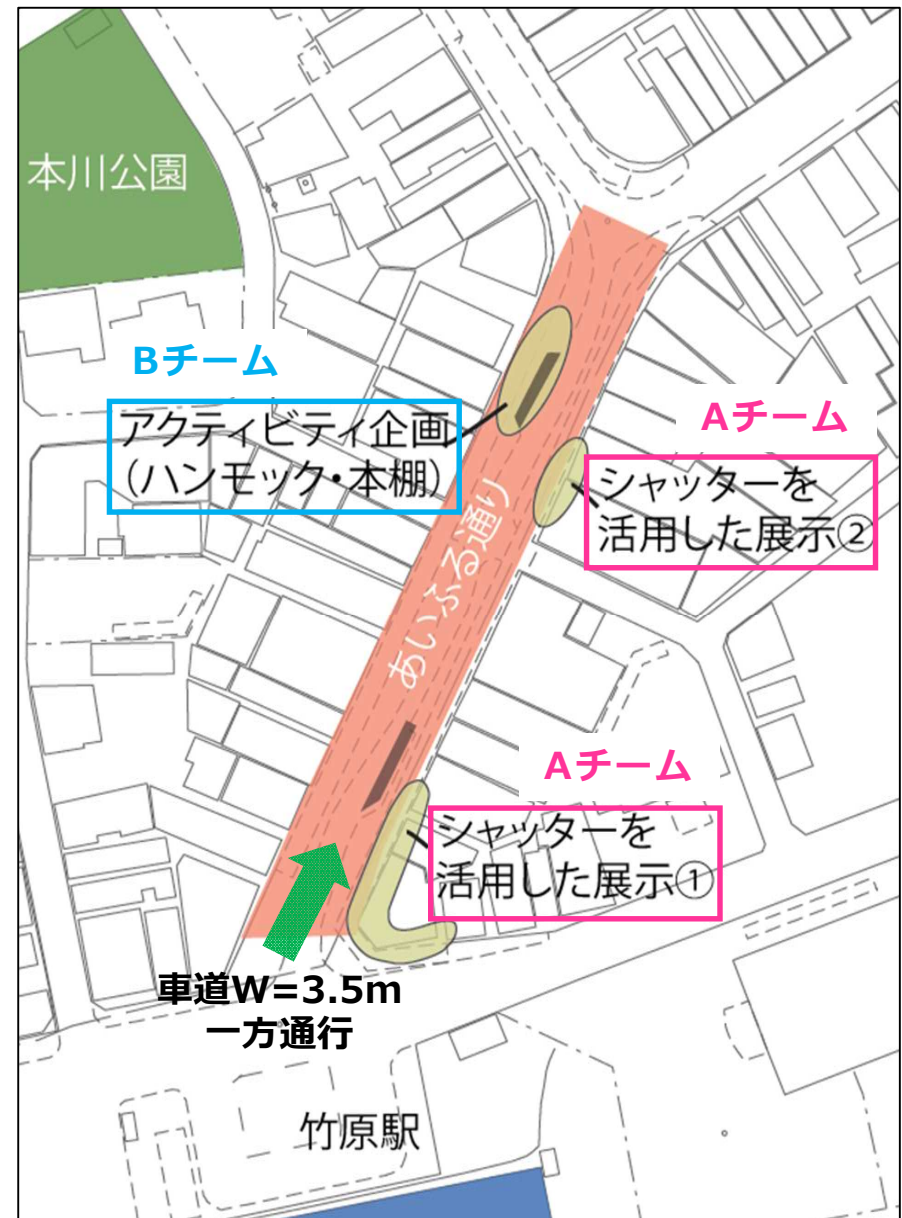
Park(ing)Day2020竹原 実施概要

日時：2020年9月18日（金）10:00～21:00
（当日雨天により16:00開始）
（追加開催19日～20日）

場所：竹原駅前あいふる通り

主催：竹原市

目的：竹原駅前あいふる通りにおいて道路空間活用の一
例となるPark(ing)Dayを開催することで、地域
住民が集まり、居心地の良い空間を過ごすこと
により、公共空間の新たな魅力を感じてもらう。



PLACE GAME 場のパフォーマンス評価

○PlaceGameによるポテンシャルと課題の共有

- ☞ 色彩の明るさと歩道の広さは活用可能
- ☞ 植栽の手入れが行き届いていない、ベンチの老朽化などおもてなし環境が不十分
- ☞ 駐車車両によって視距が遮られ、ストリート全体を見渡すことができない
- ☞ 案内看板の陳腐化など、情報が不足
- ☞ シャッターのしまった店舗が多く活気がない

○短期的なアクション : Park(ing)Day

- ☞ 歩道を活用した居心地の良い滞留空間の創出
- ☞ テーブルやイスなどを更新し、滞留するためのおもてなし環境の改善
- ☞ 来訪者に対するあいふる通りの情報発信
- ☞ シャッターをシャッターと思わせない雰囲気

○長期的なアクション

- ☞ デザイン性が高く人が利用しやすい道路空間へ
- ☞ 新たな店舗を誘致する制度設計
- ☞ おもてなし感のある滞留空間と情報発信



比較的広い歩道

管理不全の植栽
と老朽化ベンチ



視距を妨げる
駐車車両

陳腐化した看板



○短期的なアクション（Park(ing)Dayの取組）

- ☞ 広い歩道を活用した居心地の良い滞留空間の創出
- ☞ テーブルやイスなど滞留するためGearを更新しおもてなし環境の改善
- ☞ 来訪者に対するあいふる通りの情報発信
- ☞ シャッターをシャッターと思わせない雰囲気

2つの企画

『歩いて楽しむ 今昔ストリート』

- ☞ 駅から見える景観の変化（植栽の整備、看板、おもてなし空間の創出）
- ☞ 玄関口から見えるストリートへの誘導、認知（看板）
- ☞ 非営業店舗のシャッター前での展示（看板、案内、景観写真展、今昔地図、アンケート）
- ☞ 停車帯や駐輪場を活用した休憩・滞留スペース（人工芝、ベンチ、イス、テーブル、日除け、おもちゃ）

『駅前公園はじめました！』

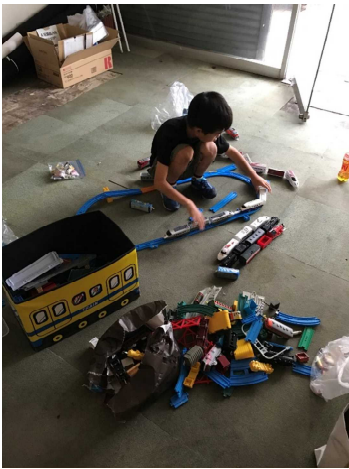
- ☞ 子どもや大人が思い思いに集い、遊び、交流できる「駅前PARK」にする。
「昼バージョン」
- ☞ 子ども達が公園のように集い、砂場やマンガ、ハンモックなどのアクティビティを配置し、遊び倒すことができる場として利用してもらう。
「夜バージョン」
- ☞ 竹原らしさで感じる竹灯りで幻想的な空間の演出、高さの異なる座り場を配置し、大人たちが集い、飲食やくつろぎの場として利用してもらう。

今回のねらい

- ☞ コロナ禍にあっても、地域の今昔を知る高齢者や子育て世帯が居心地の良い空間で滞在
- ☞ 滞在することにより、沿道商店街への波及効果やまちづくり活動への理解・協力

○竹原駅前エリアウォークアブル勉強会を活用

- ➡地域住民、商店街関係者、各事業者、市職員などが集まり、Park(ing)Day企画内容を踏まえ、準備作業の役割分担、当日の担当
- ➡調査項目の検討
- ➡対象地付近の空き店舗を借り、什器等を搬入し、組み立て作業や安全確認や動作確認を実施



Park(ing)Day 竹原駅前エリアウォークアブル勉強会

01 あなたについて

02 目的、駅前エリアには

03 当日、駅前エリアには

04 Park(ing)Dayについて

今日の目標は、地域の住民、事業者、市職員、ボランティア、学生などを集め、準備作業を実施し、当日のイベントを開催することです。

05 未来の「あいの通町」について

06 未来の「あいの通町」について

○地元自治会や商店街などと連携した清掃活動

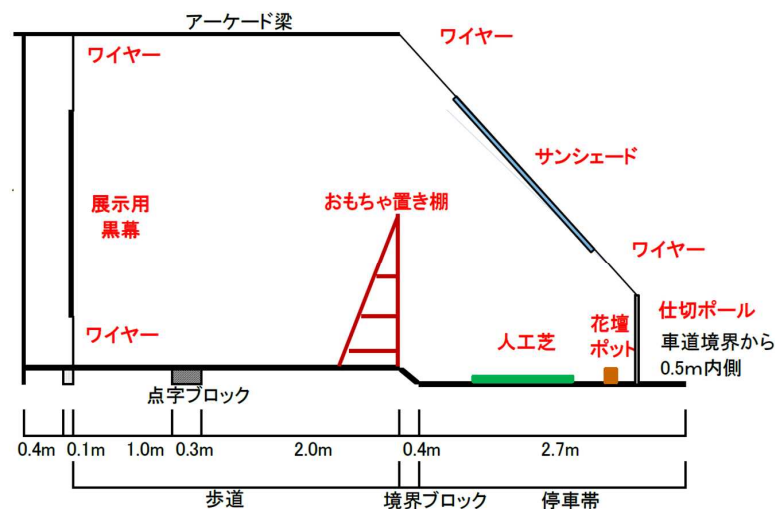
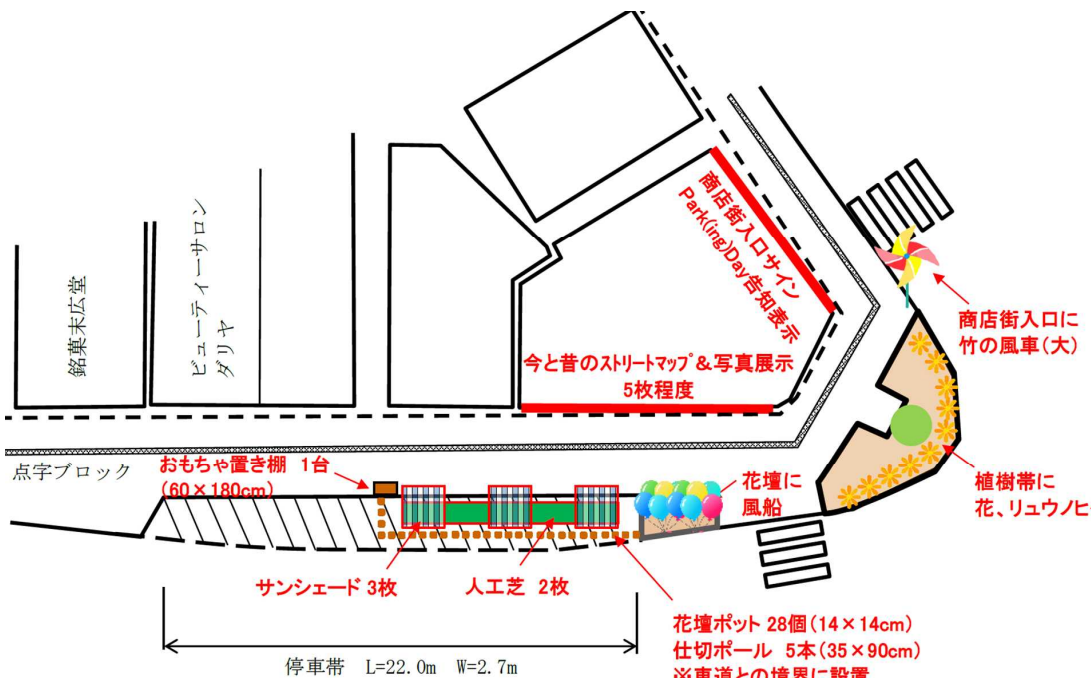
- ➡9月7日・14日の2回にわたり植樹の伐採、草刈り、ごみ拾いなどの清掃活動を実施
- ➡Park(ing)Day企画に対して、地域住民や沿道店舗の理解を得て、幅広い協力を得ることができた。

○道路占用許可と道路使用許可

- ➡道路占用許可 9月9日竹原市建設課へ提出
9月11日に許可
- ➡道路使用許可 9月11日に竹原警察へ提出
9月15日に許可

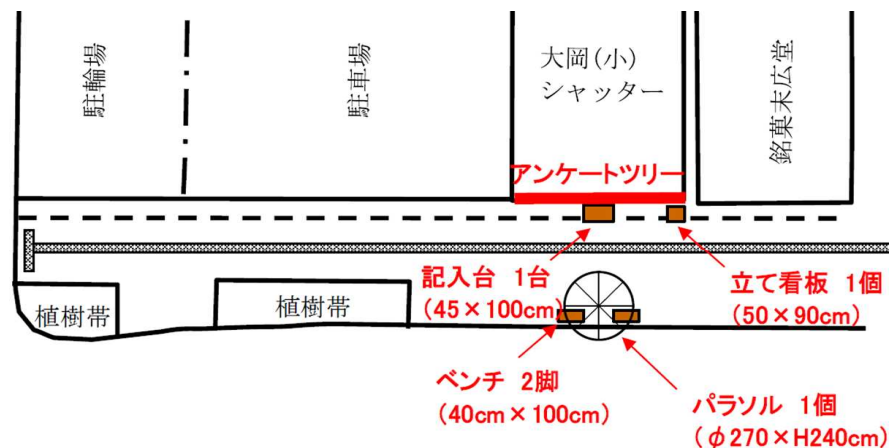
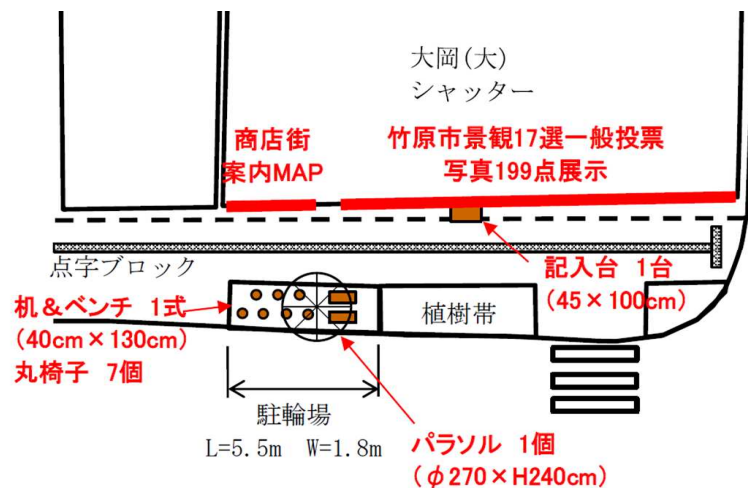
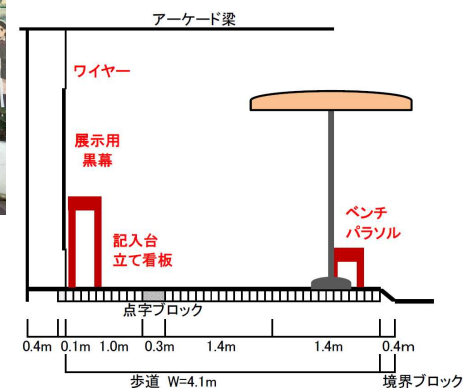
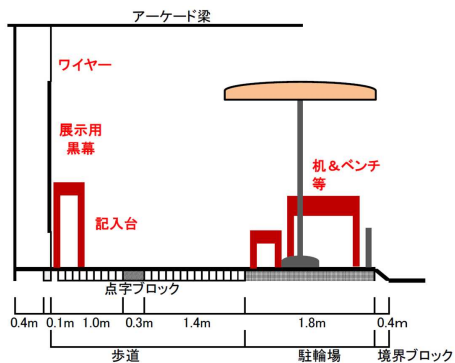
○企画概要

- ☞ シャッターの寂しさを感じさせないための『あいふる今昔Map』、暑さを和らげるための日よけのシェードの設置
- ☞ 来訪者をストリートへ誘導するための目印として、風船や風車、花壇ポットを配置した。
- ☞ 滞在する人の安全を確保するため、道路境にパーテーションポール・花壇ポットを配置した。



○企画概要

- ☞ シャッターの寂しさを感じさせないための竹原市景観写真の展示やアンケートの展示
- ☞ それぞれの場所に来訪者をおもてなしする座り場とパラソルを設置
- ☞ 来訪者がシャッターに展示してある写真やマップなどを楽しみながら歩いたり、休憩できる空間を創出



Aチーム 企画コンセプト 『歩いて楽しむ今昔ストリート』 実施状況



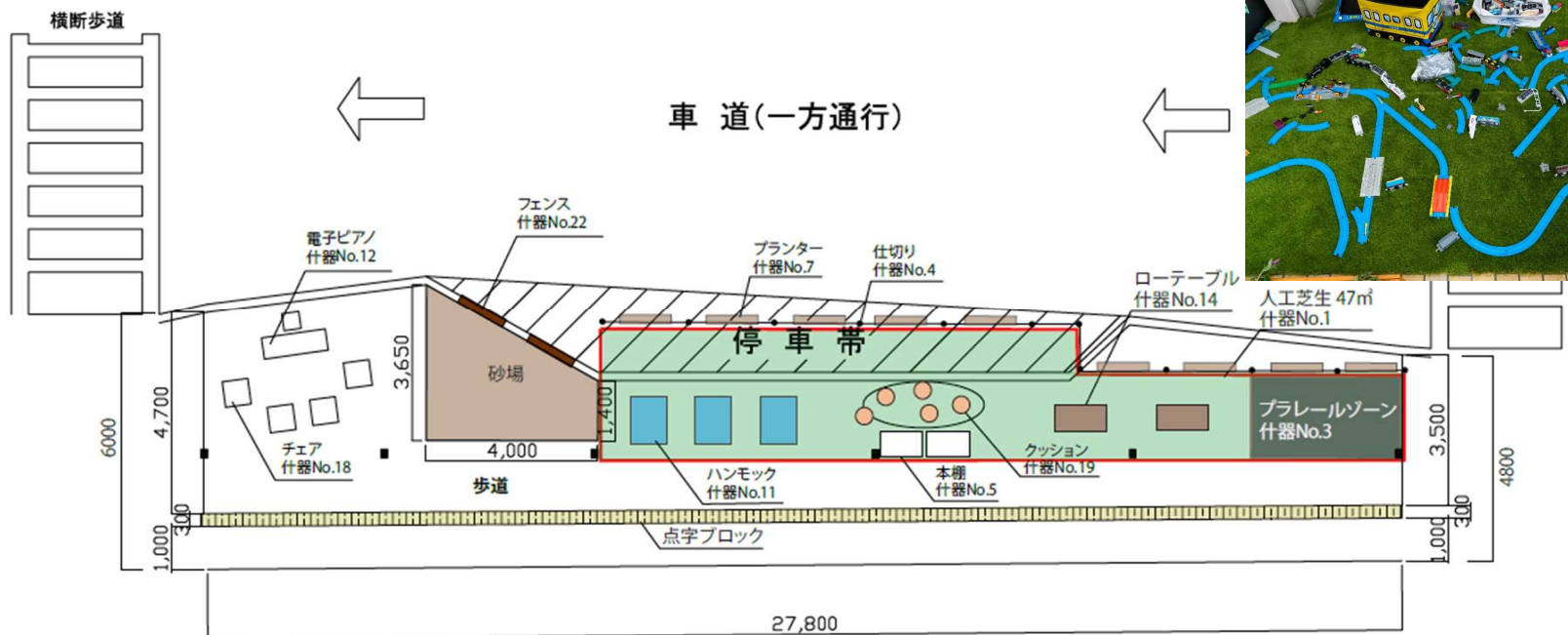
Aチーム 企画コンセプト 『歩いて楽しむ今昔ストリート』 実施コスト

実施コスト
合計 = 108,444円



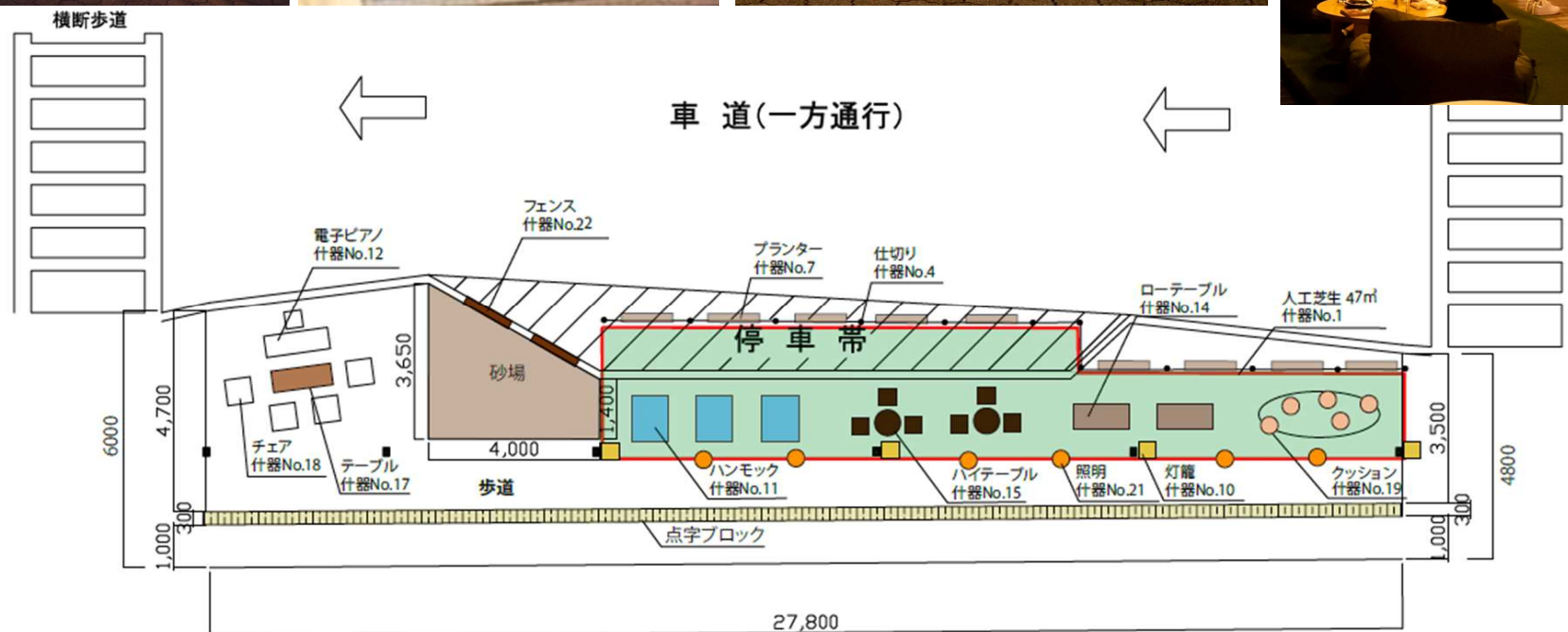
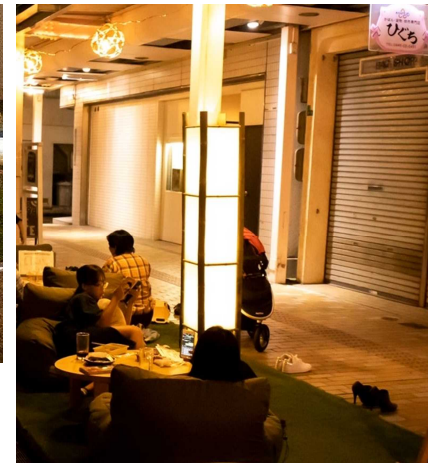
○企画概要（昼バージョン）

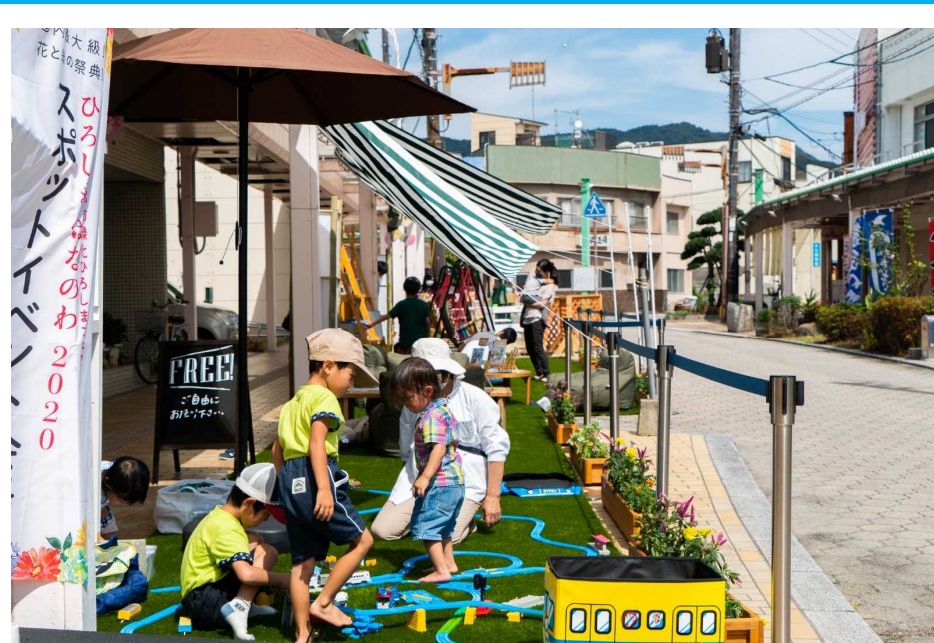
- ☞ 子どもや親たちが居心地が良く滞在するために、人工芝やハンモックなどの異なる座り場を配置した。
- ☞ 子ども達が長時間滞留するために、プラレール、砂場、マンガなどを配置し、遊べる空間を演出した。
- ☞ 遊び場の子ども達の安全を確保するために、車道との境界にプランター・パーテーションポールを配置した。



○企画概要（夜バージョン）

- ☞夜は大人たちが中心にテイクアウトの飲食が楽しめるように、テーブルやイスなどを多く配置した。
- ☞幻想的な雰囲気を演出するため、竹細工照明や竹灯籠などを配置し、絶妙な明るさにこだわった。
- ☞車道との境界に設置したプランター内にLEDライトを配置し、雰囲気に配慮した安全対策を実施した。



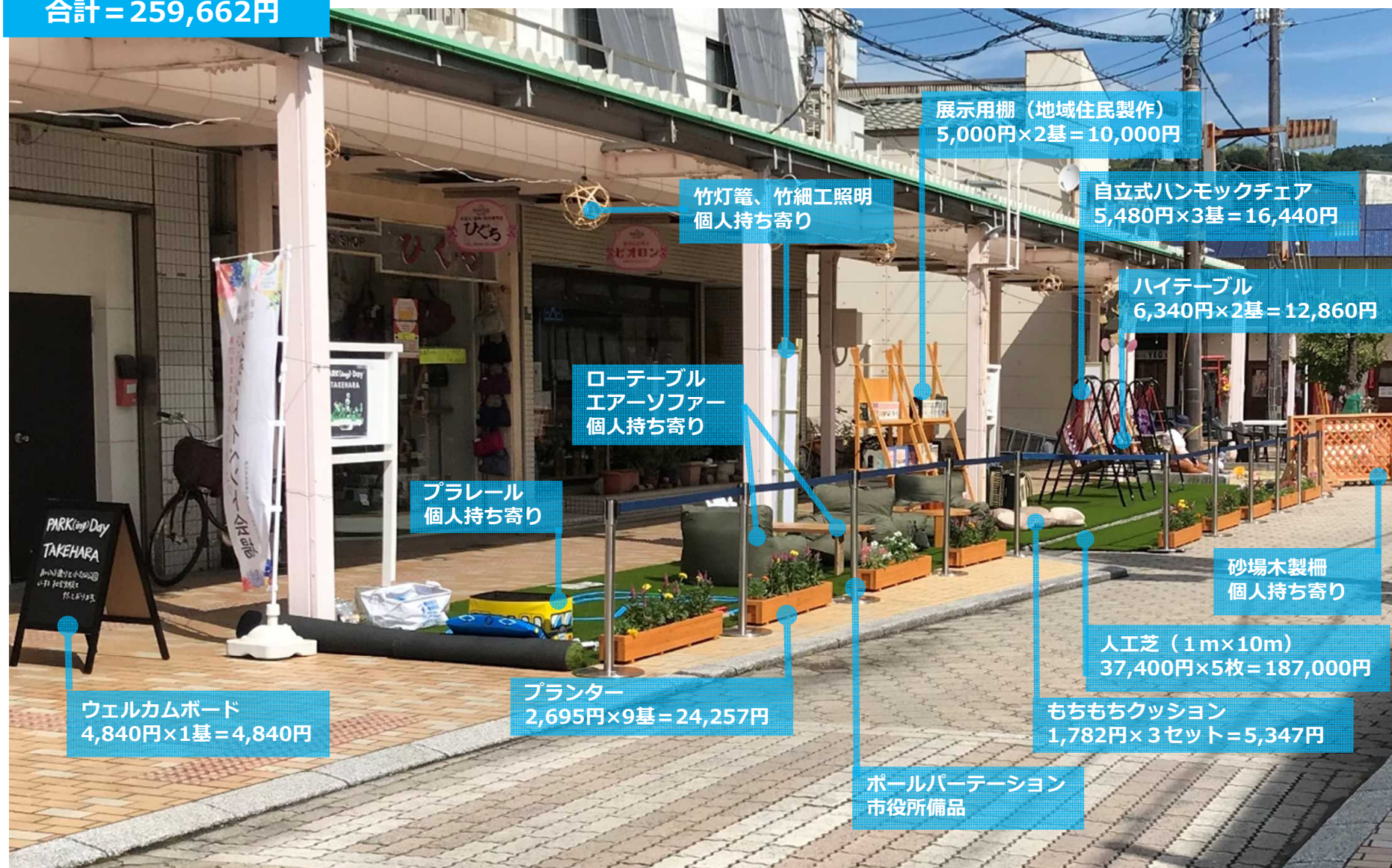




Bチーム 企画コンセプト 『駅前公園はじめました!』 実施状況



実施コスト
合計 = 259,662円



Aチーム『歩いて楽しむ 今昔ストリート』

- ☞ 今回のPark(ing)Dayで取り組みをきっかけに沿道の商店や住民、関係機関を少しでも巻き込むことができて良かった。
- ☞ 準備作業が想像以上にきつかったので、もっと手軽にできる企画にしたよかった。
- ☞ 構想やプレイスゲームに参加することで、『あいふる通り』に対する思い込みから脱出できたと同時に、より現実的なイメージ湧いて、みんなのそれぞれの立場でできることに取り組みば、こんなに素晴らしい企画が実現できた。
- ☞ 今回、うまくいったことやうまくいかなかったことを踏まえて、日常的な取組につなげていくためには、どうすれば良いか考えていきたい。

Bチーム『駅前公園はじめました！』

- ☞ 今回のPark(ing)Dayで作り上げた空間で、遊んでいる子ども達やその親たちには笑顔があふれていて、最近の『あいふる通り』では見たことがない光景でした。
- ☞ 単に質の高い座り場を提供するだけでなく、子ども達が遊べるアクティビティ（特に、創造性のある遊び）を提供すると、長い時間滞在してもらえることが分かった。
- ☞ 遊んでいる子どもの親からは、近くにこんな場所があれば、いつも遊びに来るなどの声が多く聞かれ、コロナの影響で、遊びにいくのに躊躇していたことを改めて感じた。
- ☞ 調査を頑張りすぎた。



👉 通行量調査及び立寄率調査

Park(ing)Day時の歩行者の通行量の変化を明らかにすると共に、その中で各ゾーンへの参加者数を明らかにし、効果を提示する。

👉 滞留時間調査

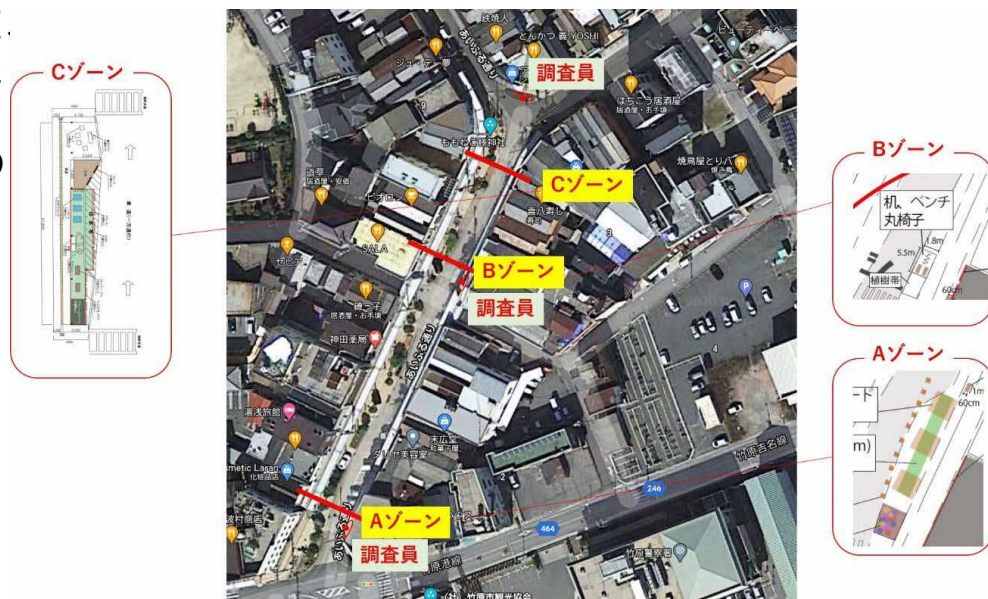
ゾーン別に滞留する利用者の滞留時間を把握し、滞留時間の増加に良い影響を与える空間・コンテンツ要素を明らかにする。

👉 来訪者へのアンケート調査（QR：32回答、アンケート：52回答）

滞留する人の属性を明らかにするとともに、どのような空間要素・場所・機能に満足しているかを明らかにし、今後の空間整備等への方針と課題を整理する。

👉 店舗へのアンケート調査（14回答）

Park(ing)Dayを実施した周辺商店街の満足度や今後の課題を整理する。

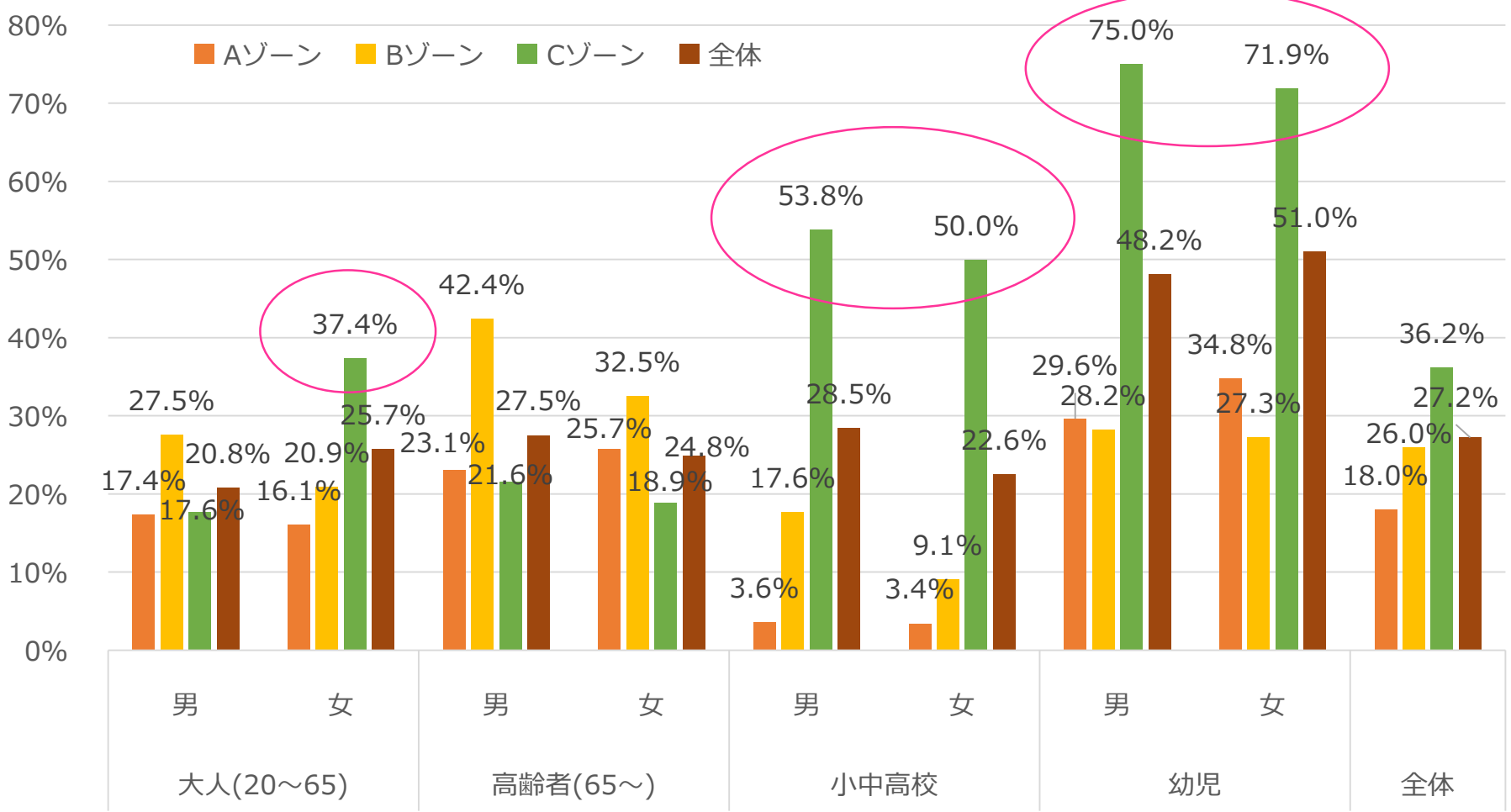


Park(ing)Day 調査

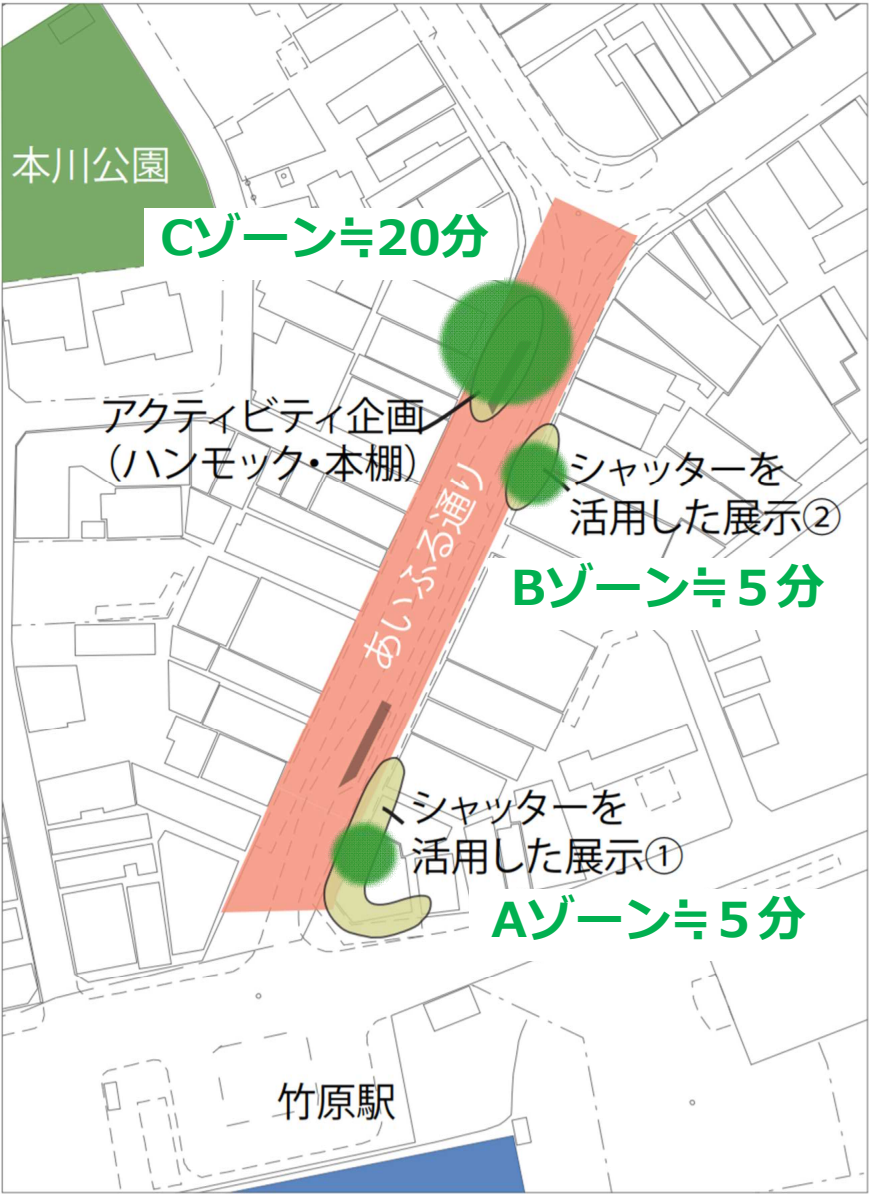
👉 通行量調査及び立寄率調査

- Aゾーン：あいふる通り入口付近の今昔Mapや写真展示とあわせた滞留空間
- Bゾーン：景観写真展示とあわせた滞留空間
- Cゾーン：子ども達の遊べるアクティビティや高さの違う座り場などを配置した滞留空間

各ゾーンにおける年代・性別ごとの立寄率

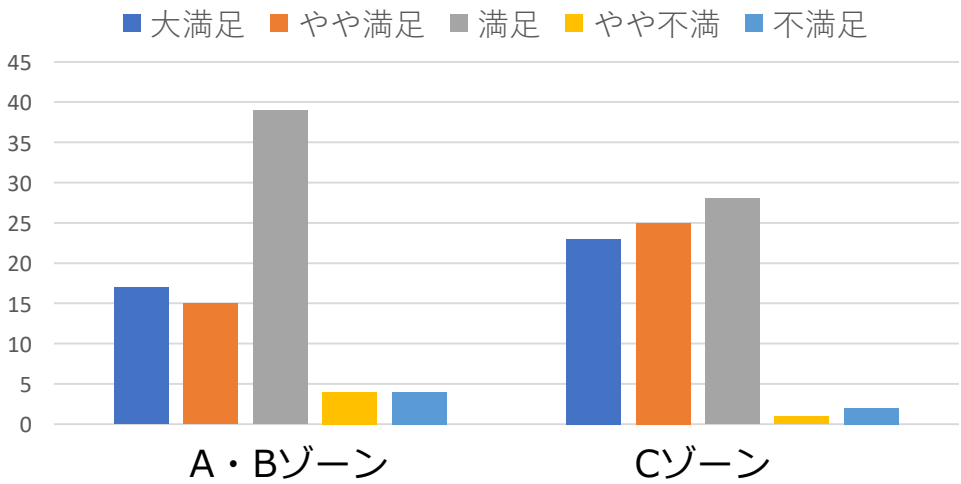


👉 滞留時間調査

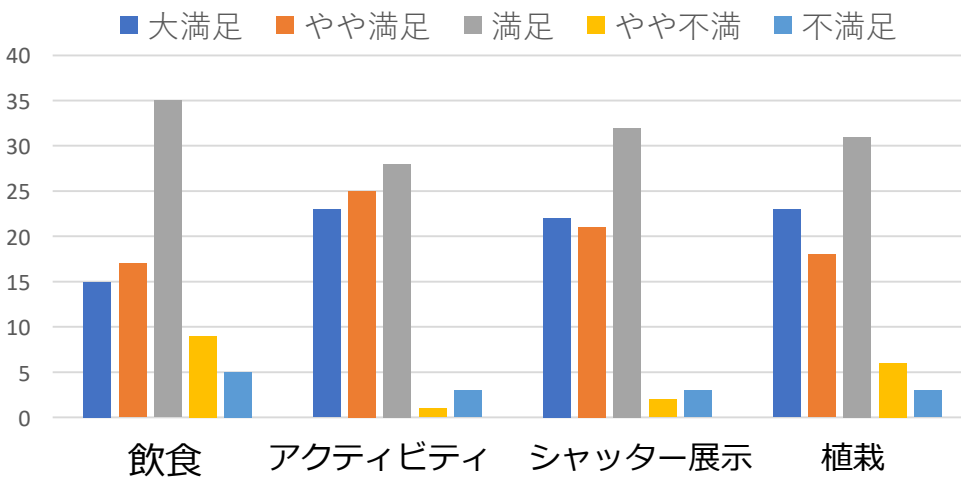


👉 来訪者アンケート調査

Park(ing)Dayの空間満足度



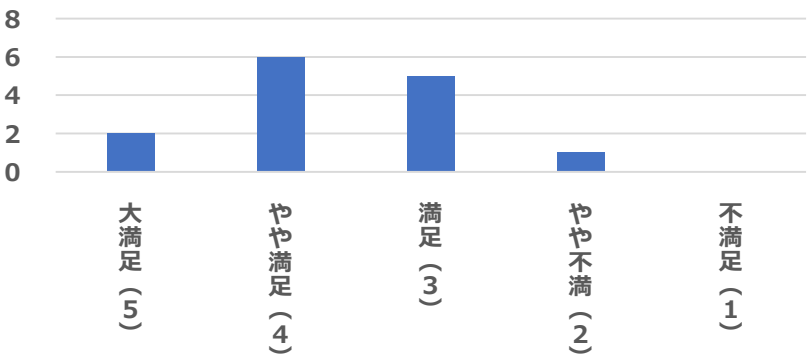
Park(ing)Dayのコンテンツ満足度



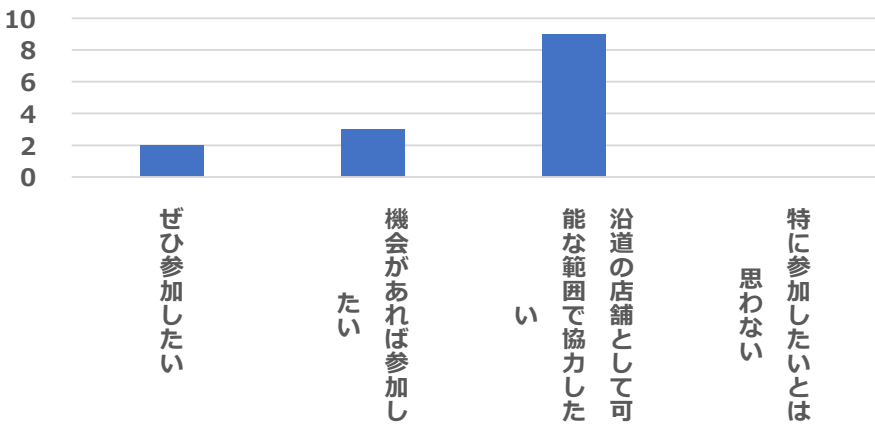
Park(ing)Day 調査

👉 店舗へのアンケート調査

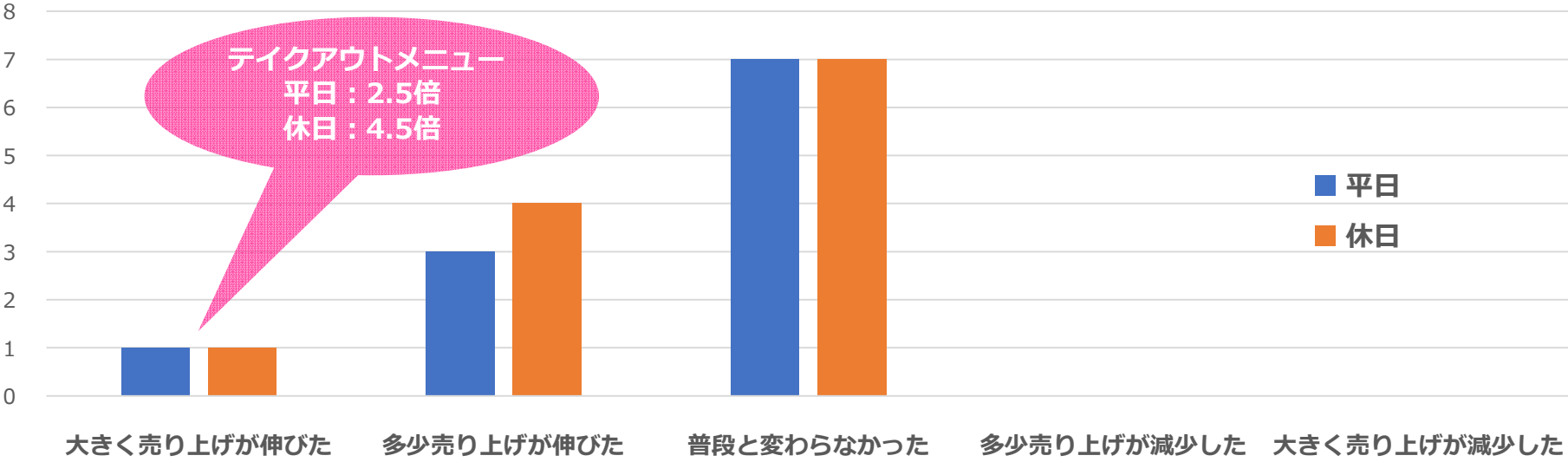
Park(ing)Dayの満足度を教えてください。



Park(ing)Dayの取組みに企画段階から参画したいですか



通常に比べてお店の売り上げに変化がありましたか



👉 その他の効果



店舗の賑わいが公共
空間で感じることが
できる。

高齢者が、店舗の
外に出てくつろぐ風
景が見られた。



ねらい

- ☞ コロナ禍にあっても、地域の今昔を知る高齢者や子育て世帯が居心地の良い空間で滞在
- ☞ 滞在することにより、沿道商店街への波及効果やまちづくり活動への理解・協力

結 果

- ☞ 質の高い座り場を設けることに加えて、子どもの遊びの創造性を付加価値とすることが滞留時間に大きな影響を与えた。
- ☞ 夜バージョンは大人のみの利用を想定していたが、子どもを遊ばせながら大人たちが飲食を楽しむなど、想定外の利用があったことは大きな発見であった。
- ☞ 沿道商店でも売り上げが増加する店舗があり、一定の経済的な波及効果を確認できた。
- ☞ 店舗によっては、企画段階から参加したい意見があり、事業者の意識も変わってきた。

今後の展開

- ☞ 小さな取り組みを継続的に実施し、沿道店舗の協力を徐々に広げていきたい。
- ☞ 竹原駅前エリアウォークブルビジョンへ反映させる。

☞ Park(ing)Day2020竹原（協力して頂いた皆様）

宋 俊煥（山口大学） 渡邊 太一（山口大学学生）
福島 紗瑛（山口大学学生） 大仁田 樹（山口大学学生）
山内 英明 藤川 万里子 坂本 幸子 藤川 裕員 廣岡 晃三
福本 博之 今本 新 一ノ瀬 創矢 増田 三紀 深津 航大
西岡 慶保 西吉 八起 伊藤 大輔
伊藤 成央（11歳） 山道 彩 土井 亮平 小林 大介 岡 靖志
中原 有美 南谷 誠一

☞ 写真撮影

反岡 和宏



竹原駅前エリアウォークブルビジョン骨子（案）

2020年11月 竹原市



みなで
目指すべき
将来像を共有

Park(ing)Day
のイメージ

民間

居心地に良い空間・歩きやすい空間創出に、日常的な取り組みとして努力する。

行政

地域の皆さんが活動しやすい制度、許認可などを支援する。
日常的な努力に応えるための、ハード整備を実現する。